

易水送別（駱賓王）

此の地 燕 丹に 別る

壯士 髪 冠を 衝く

昔時 人 已に 没し

今日 水 猶お 寒し

此地別燕丹 壯士髮衝冠
昔時人已沒 今日水猶寒

解説 戦国の末期、燕の太子丹は秦王（後の始皇帝）に恨みを晴らそうと、刺客荆軻に秦王の暗殺を頼んだ。荆軻の出発にあたり、丹をはじめ、賓客だらけ皆白装束をして、易水のほとりで送別の宴を開いたが、そのとき、荆軻は「風蕭蕭として復還らず」と歌ったので、聴く者は皆、目をいからせ、髪の毛は逆立つて冠をつき上げるほどであったという。

語釈 ※易水Ⅱ河北省易県に源を発する川。東南に流れて大清河にはいり、東へ流れて大勝沽で渤海湾に汪ぐ。※燕丹Ⅱ燕の国の太子、丹をいう。丹が人質として秦の国に行ったところ、秦王の処遇がひどかったので、これを恨み、秦王の暗殺を荆軻に依頼する。※壯士Ⅱ荆軻とする説と荆軻を送る人びととする両説がある。※髮衝冠Ⅱ怒った時の形容。※寒Ⅱつめだい。

通釈 ここ易水のほとりで、昔、荆軻は燕の太子丹と別れたが、そのとき、「風蕭蕭として易水寒し。壯士一たび去って復還らず」と歌い、人びとは皆、目を瞋らし、髪の毛は逆立つて冠をつくほどの勢いであった。さて、その当時の人びとは、もはやなく、われわれの前には、ただ易水だけが今もなお、昔のようにつめたく流れている。